



身近な川魚 知ろう守ろう

丹波篠山 篠山東雲高生が「水族館」

丹波篠山市で環境保全に取り組み個人や団体の活動を発信する展示「みんなで知ろう! 守ろう! 丹波篠山の環境」が、同市黒岡の市民センターで20日まで開かれている。県立篠山東雲高校(同市)自然科学部は「しのめ水族館」と題し、地域の川に生息する魚を紹介している。

同校自然科学部は部員6人。生き物の暮らしやすい環境づくりや特定外来生物の駆除と食材などへの有効活用、子どもたちを対象にした自然観察教室開催などの活動をしている。

「しのめ水族館」では、市内の篠山川や武庫川水系で採取したオイカワやカワ

ムツ、アブラボテなど8種類を四つの水槽で展示している。さん(1

年)は「身近にいる魚をじっくり観察してもらい、みんな体のつくりをしているんだとか関心を持ってもらえたらうれしい」。

さん(同)は「川の大切さや生き物のすみやすい環境を作ることの大切さを知ってもらえたら」と話した。

市民センターではこのほか、放置されている竹を資源として活用する研究、多紀連山に咲くクリンソウを保全する活動などが紹介されている。水族館以外の展示は今後、市立中央図書館、市役所本庁舎に巡回する。(前田智)

朝日新聞

2022年1月12日